

# 提案書 α ー江頭ゼミナール

## 提案の概要

- ・主たるターゲットとすべき顧客は、「学生」、「会社員」であると考えられる。
- ・導入すべき店舗は、「ファストフード店」、「カフェ」、「スイーツ店」である

## 詳細の説明

### 1. ターゲット1 学生

#### E1.1 学生の利用頻度

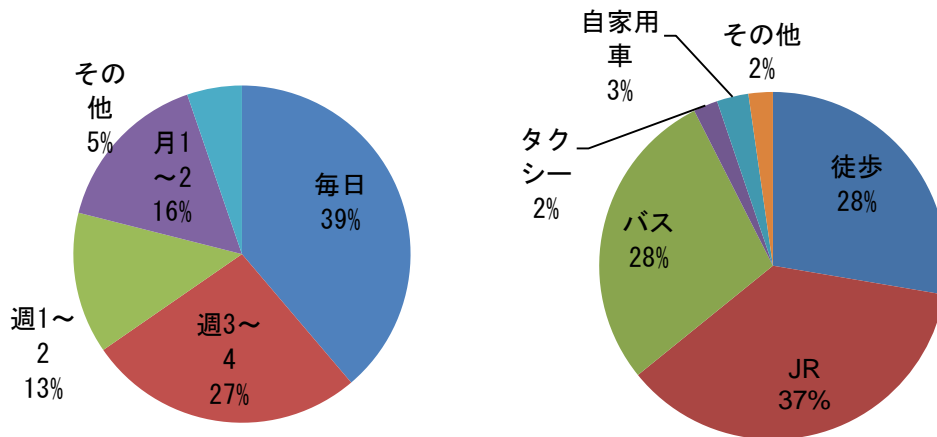


図 E1 小樽駅の利用頻度(学生)

図 E2 自宅から小樽駅までの交通手段

学生の約7割が週3~4回以上の頻度で小樽駅を利用し、約4割がJRを使うため駅構内を必ず通ることになり、駅ナカ店舗と接触する可能性が高いと思われる。

#### E1.2 学生の嗜好

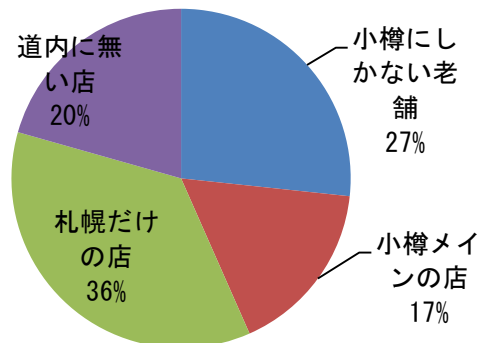


図 E3 店舗の性格

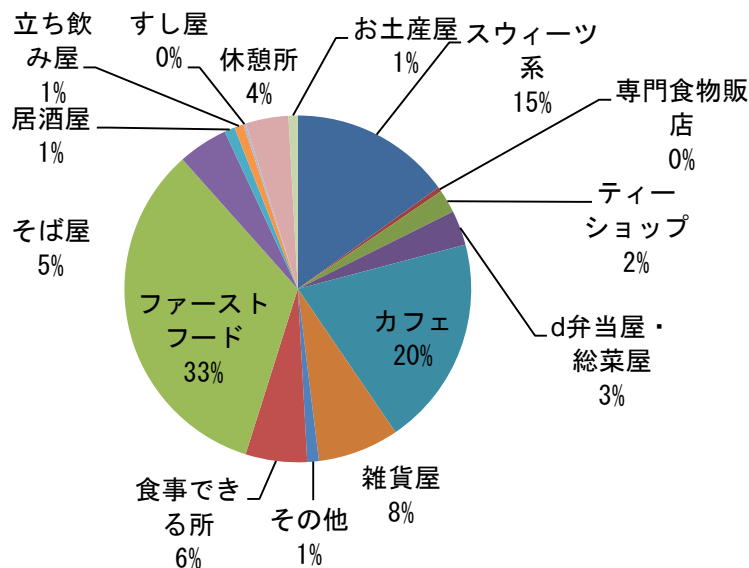


図 E4 どのような店であれば利用するか

小樽にどのような店があれば利用するかという質問に対し、「小樽市内を中心に展開している店」と答えた回答者は 17%と 4つの選択肢の中で一番少ない。さらに「小樽にしかない老舗」を加えても過半数を超えない。このことから学生は、小樽市内にある既存店には興味がないことがわかる。他方で、道内には現在存在しない店に対する関心も取り立ててないようであり、札幌にある店を望む人より断然少ない結果となった。この意味で、学生の保守的な傾向が読み取れる。

学生が求めている店舗は 1位ファーストフード(マクドナルド、ロッテリア等) 2位カフェ(スターバックス、タリーズコーヒー等) 3位スイーツ系(サーティーワン、クレープ店等)であった。以前にロッテリアがあったときは使用していた学生は多く、駅構内に学生向けの低価格な店舗があれば利用されると考えられる。

反面、販売系の店舗に対する需要は少ない。学生にとって駅ナカ店舗は時間をつぶす場所であっても積極的に買い物を楽しむ場所ではないということが理解できる。

### E1.3 駅ナカの利用状況

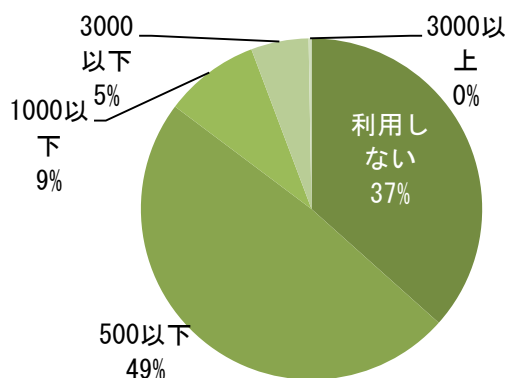
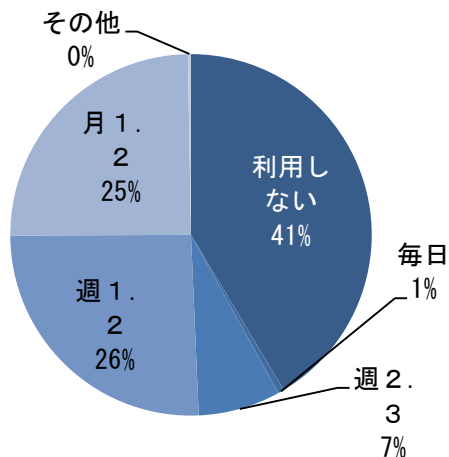


図 E5 駅ナカ店舗の利用頻度

図 E6 駅ナカで使おうと思う金額

「学生」の回答は「駅ナカの店は利用しない」が 41%、「500 円以下の利用」が 49%となり、ほとんどが占める。これは学生の経済的制約とともに、小規模の駅店舗という物に対して学生が大きな期待をしていないことが理解できる。小樽駅において、学生は顧客となり得る最大集団であるが、1 人当たりの使用金額は低いことを考慮しなければならない。

図 E5 で「利用しない」の回答が 4 割を超えているのは、現在の小樽周辺の駅ナカ店舗には、「学生」の嗜好を満たす店がないためであると推測される。逆に、嗜好を満たす店ができたとしても、比較的低価格で提供されるような商品でないと生き残るのは難しいと思われる。

### E1.4 利用時間帯

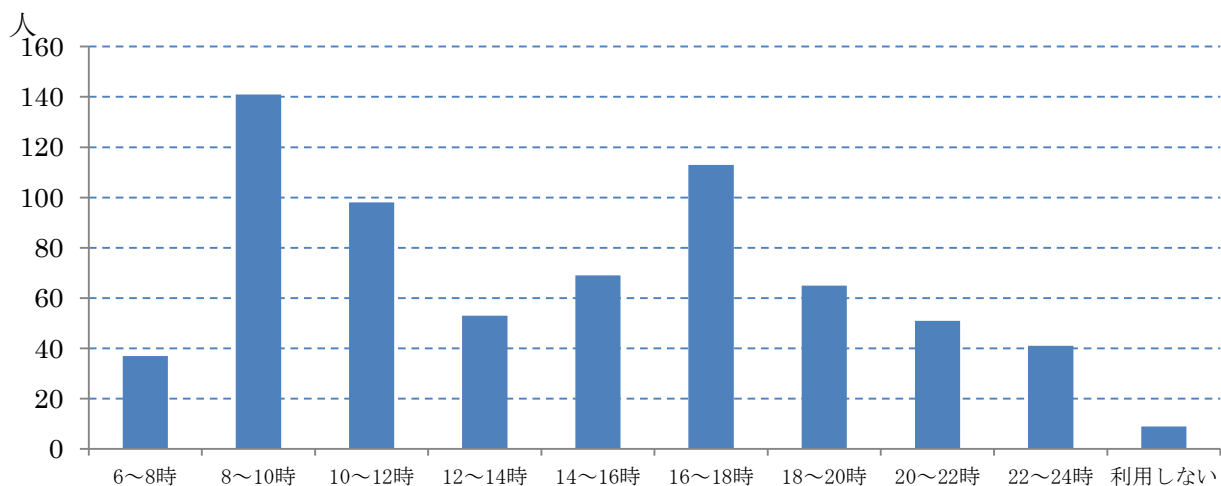


図 E7 学生の駅利用時間帯 (アンケート結果)

学生の利用時間帯は、会社員と同じく通学・帰宅時間帯に多いことがわかるが、会社員と比べると幅広く広がっていることがわかる。

### E1.5 学生を主たるターゲットと見なしたときの問題点

通行量調査から、学期期間中はたとえ休日であっても部活やサークル活動で登校してくる学生は多い。しかし、今回の調査では、夏休みや春休みなどの長期休業中の状況を判断しにくい。当然、長期休業期間中は、小樽商大生のような札幌方面から JR を利用する学生が激減すると考えられる。

この問題の解決方法は、二つの追加的ターゲットを組み合わせることで解決可能であると考えられる。一つは観光客との組み合わせ、もう一つは高齢者との組み合わせである。小樽の場合、観光客は特に夏期休業中に集中することが見込まれるので、夏期休業分の学生数の落ち込みは、全体としては十分賄えると思われる。ただし、時間待ちの場合を除けば、観光客がファストフードやカフェのようなチェーン店系の店舗を利用するとは思われない。

そこで恒常的な需要を与えてくれる高齢者と組み合わせることが考えられる。

店舗種類	割合 (%)
カフェ	17.9
ファストフード	11.6
そば・ラーメン屋	10.1
寿司屋	3.0
休憩所	0.9

表 E1 高齢者の欲しいと思っている店舗種類上位 5

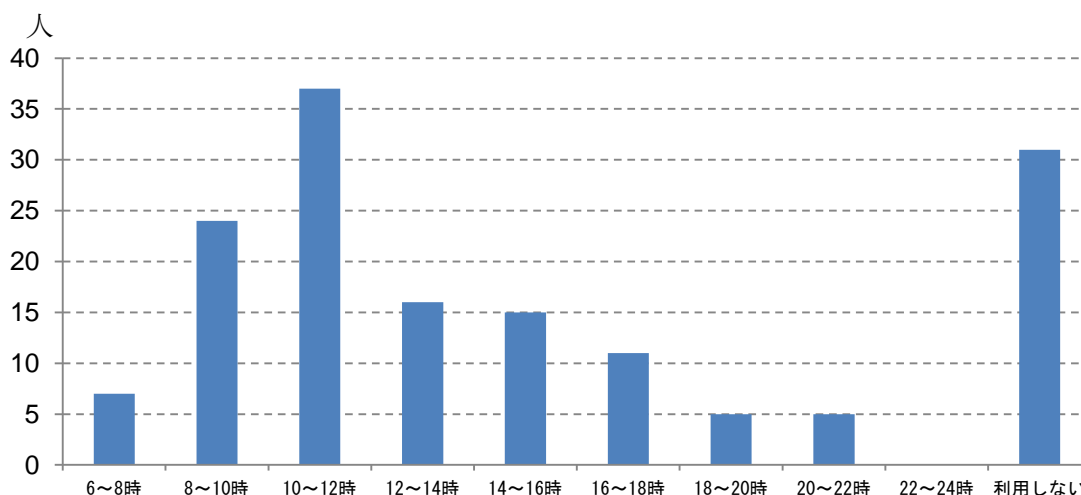


図 E8 60 歳以上の駅利用時間帯

表 E1 は、老人の上位に「カフェ」、「ファストフード」という学生と同じ店舗種類が並んでいる。この 2 種の店舗はを求めている傾向にあることがわかった。老人も小樽駅に少し落ち着いて、話ができる場所を求めているようである。このように他の職業、年代で学生がいない時期を補うことができる。また、一日の利用時間帯(図 E8)を見てもちょうど学生の

利用時間と入れ違いの時間に駅を通過することが多く、休憩所的な要素を入れることでより多くの高齢者を引きつけることができると考えられる。利用金額が 500 円を超えていることもこの層の特徴である。

学生は 1 日を通して駅にいるので、ターゲットに絞しやすい。アンケート通りにカフェやファストフード店等、中で話ができ勉強や読書ができる飲食店等をいれるが良いと思われる。

## 2. ターゲット 2 会社員

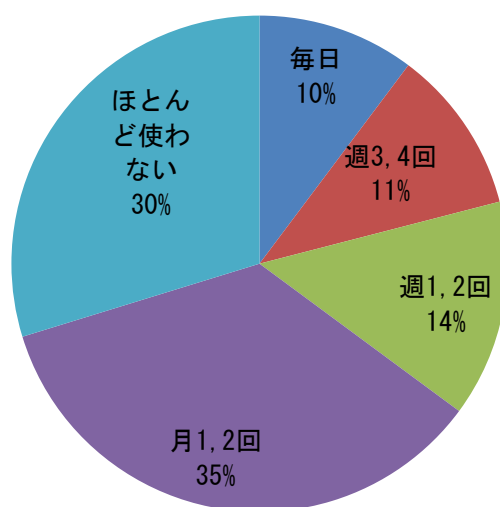


図 E2.1 小樽駅の利用頻度

会社員も学生について小樽駅を利用する頻度が高い。特に全体の 1/3 が毎週一定回数以上を小樽駅を利用する。これは絶対数の多さと合わせて考えれば会社員が有望な顧客となり得ることを示している。

### サラリーマンとOL

下の図 1 の通り会社員は男性の方が通行量は多いということがわかった。もし、女性をターゲットにする場合、食事の時間帯や出勤退勤時など特定の時間帯、利用目的を狙うよりもどの時間帯でも立ち寄れるものが望ましいのではないだろうか。

また図 2 より昼の時間にサラリーマンは小樽駅を利用していない。しかし、交通量調査の結果から駅前を通過している人は多いことがわかっているので、この

層のサラリーマンをどう呼び込むかが集客の鍵だろう。

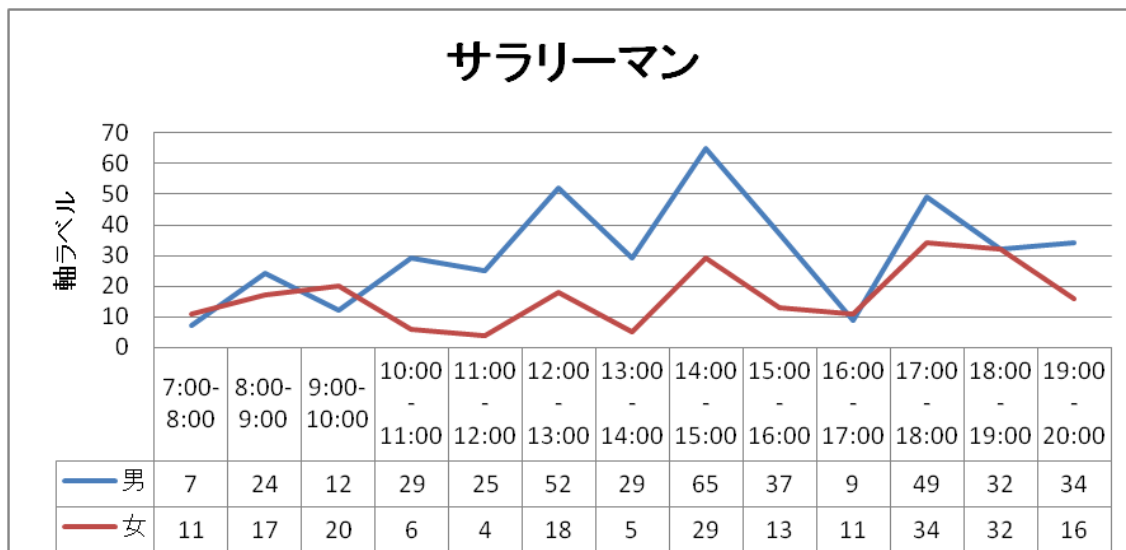


図1 (会社員の交通量調査の結果)

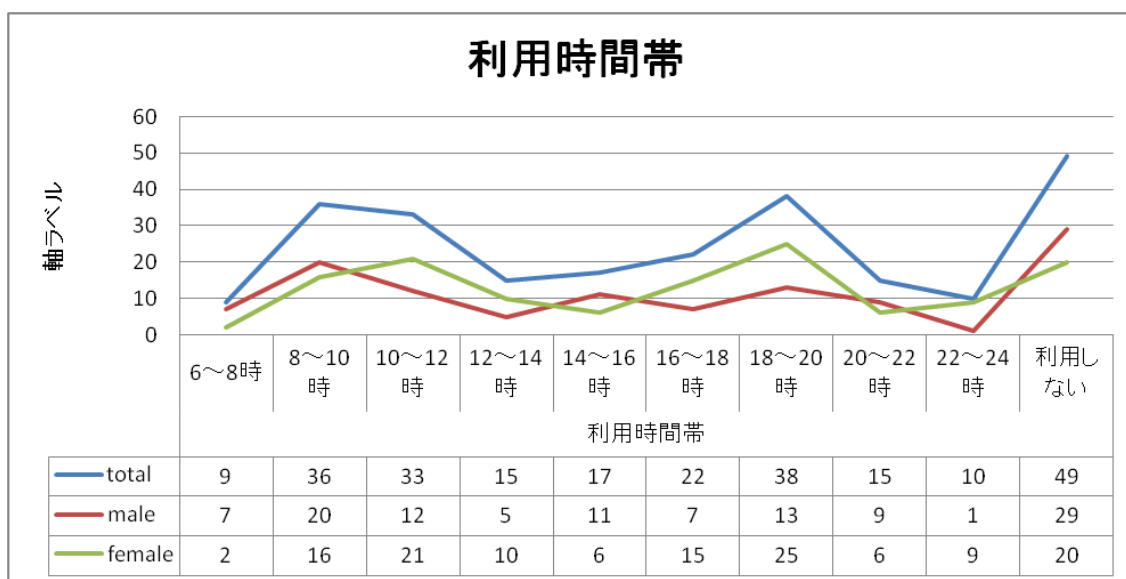


図2 (会社員の小樽駅の利用時間帯)

#### 会社員はどんな店を求めている？

男女共に1, 2位は『カフェ』、『ファーストフード』という結果になった。男性はそば屋や食事が出来る所など食事を目的とし、女性は雑貨屋やスイーツなど空いた時間でライフスタイルを楽しむような使い方を望む傾向にある。

会社員は待ち時間で『携帯を見る』『待ち時間を作らない』『何もしない』という回答が大多数であった。(図4参照)

ただ、『駅ナカ店舗でいくらまでなら使おうと思うか』という質問で他の職業の大多数が『使わない』『500円以下』と回答しているのに対し、サラリーマンは『500円以上』と答えた人が約半数に昇った。

つまり、サラリーマンをターゲットにすることでより多くの利益が見込めるだろう。具体的には昼間駅前を通るサラリーマンが昼食をとれるような飲食店などが良いだろう。

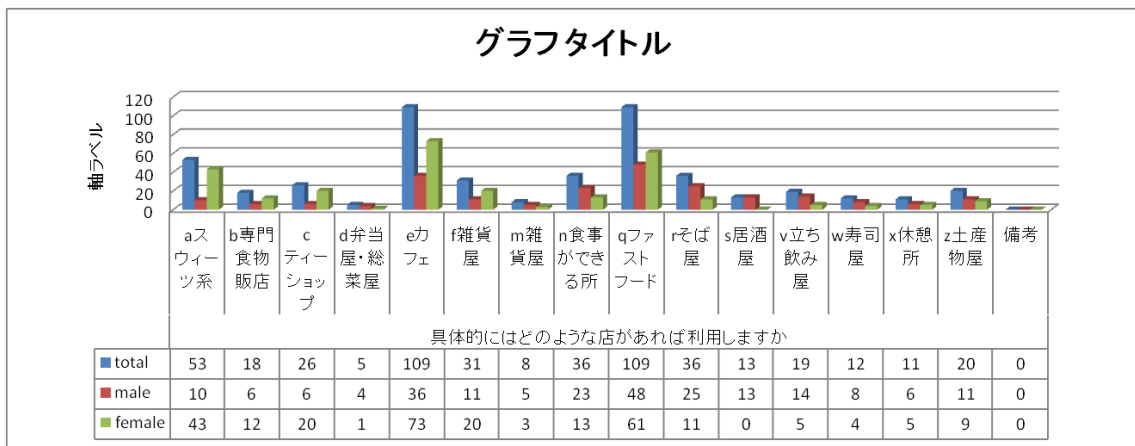


図3 (会社員がどのような店が入れば利用するか)

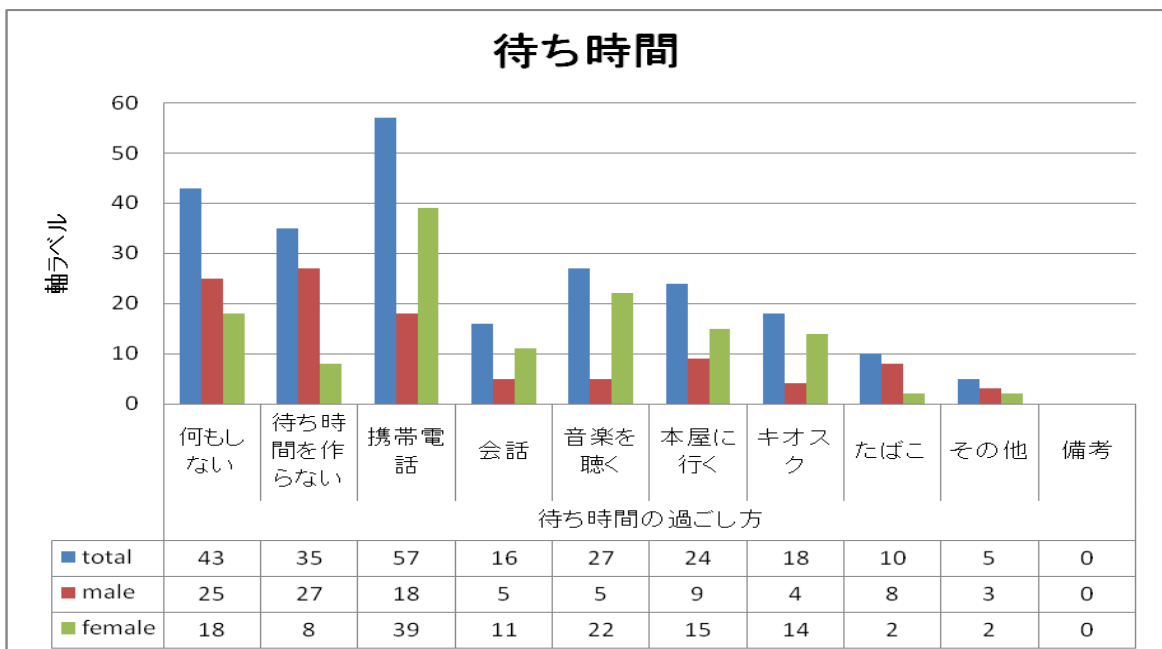


図4 (会社員が待ち時間に何をしているか)

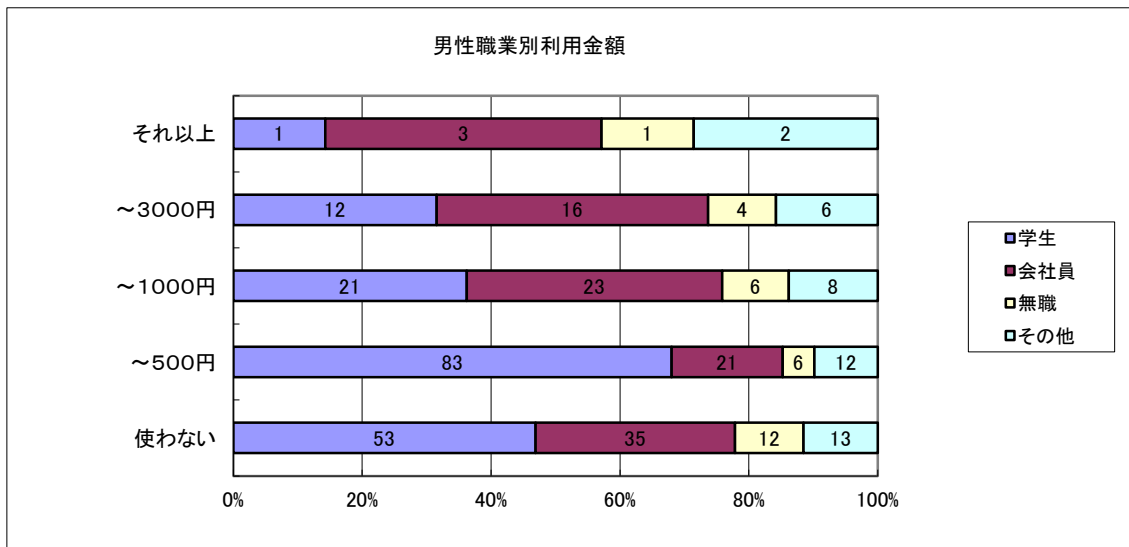


図5（男性職業別利用金額）

考察のまとめ

- ・会社員をターゲットにする場合、利用の多くが通勤時間に集中している事、待ち時間の行動の傾向から駅構内のお店に長居することは考えにくいのでアンケート通り通常の飲食店よりもカフェ、ファーストフード等気軽に立ち寄ることができ、休憩できる店舗があるのが望ましい。
- ・女性は待ち時間に行う事についてのアンケートで 本屋へ行く や キヨスクに行くなどお店に行く事が多いと答えていたので時間が潰せるお店であれば立ち寄る機会は多くなると予想される。
- ・昼の時間帯に訪れる男性会社員の数が多い割にアンケートの利用時間帯では昼間の時間帯の利用が多いと答える人が少なかった事から、通りかかるが利用はしないといった男性客が多いことが伺える（逆を言えば男性客が昼間に立ち寄るお店があれば利用客がかなり増えると予想出来る）ので男性のアンケートで多かった飲食店系は必須ではないだろうか。

以上。